

平成29年12月

中村理沙 学位論文審査要旨

主 査 今 村 武 史
副主査 谷 口 晋 一
同 山 本 一 博

主論文

Serum fatty acid-binding protein 4 (FABP4) concentration is associated with insulin resistance in peripheral tissues, a clinical study

(血清脂肪酸結合タンパク4 (FABP4) 濃度は末梢組織でのインスリン抵抗性と相関するという臨床研究)

(著者：中村理沙、大倉毅、藤岡洋平、角啓佑、松澤和彦、伊澤正一郎、上田悦子、加藤雅彦、谷口晋一、山本一博)

平成29年 PLOS ONE DOI:10.1371/journal.pone.0179737

参考論文

1. High serum advanced glycation end products are associated with decreased insulin secretion in patients with type 2 diabetes: A brief report

(高血清終末糖化産物は2型糖尿病患者においてインスリン分泌低下と関連する:短報)

(著者：大倉毅、上田悦子、中村理沙、藤岡洋平、角啓佑、松本和久、庄司恭子、松澤和彦、伊澤正一郎、能見祐理、三原瞳、大塚譲、加藤雅彦、谷口晋一、山本一博)

平成29年 Journal of Diabetes Research DOI:10.1155/2017/5139750

2. Normal meal tolerance test is preferable to the glucagon stimulation test in patients with type 2 diabetes that are not in a hyperglycemic state: Comparison with the change of C-peptide immunoreactivity

(通常食の食事負荷試験は高血糖状態でない2型糖尿病患者においてグルカゴン負荷試験よりも望ましい：Cペプチド免疫活性の変化との比較)

(著者：藤岡洋平、大倉毅、角啓佑、松本和久、庄司恭子、中村理沙、松澤和彦、伊澤正一郎、加藤雅彦、谷口晋一、山本一博)

平成 29 年 Journal of Diabetes Investigation DOI:10.1111/jdi.12692

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、2型糖尿病患者における様々なインスリン抵抗性関連因子の血清濃度を測定し、インスリン抵抗性の各種臨床指標との相関を調べたものである。インスリン抵抗性関連因子と体組成因子の相関や、食事負荷試験で得られるインスリン分泌能とインスリン抵抗性関連因子との相関を評価した結果、血清FABP4濃度がインスリン感受性との間に有意な逆相関を示すことを明らかにした。さらに、グルコースクランプ法により骨格筋特異的なインスリン感受性を精密測定した結果、ヒト血清FABP4濃度が骨格筋におけるインスリン抵抗性と関連することを世界で初めて確認した。本研究は、血清FABP4がインスリン抵抗性評価指標として、またインスリン抵抗性治療標的として有用であることを示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。